

宮下健司氏 (長野市立安茂里公民館館長)

水と土の文化創造都市市民プロジェクト事業

信州の「水」、「文化」について 講演会

上流と下流の「水」、「土」、「文化」の違い 対談

日時 2016.8.11(木)
14:00~16:40

場所 クロスパルにいがた 4階 映像ホール
新潟市中央区礎町通3ノ町2086



宮下 健司



大熊 孝

安曇野を潤す拾ヶ堰は、今年開削200年目を迎えた

長野市立安茂里公民館館長
元長野県立歴史館総合情報課長

新潟市潟研究所所長
新潟大学名誉教授



第7回 信濃川大河塾

梓川上流から下流新潟の「水と土」を考える旅

旅の案内役



大熊 孝

日時 2016.8.23(火)~24(水)

参加費 ￥24,000円 (1泊4食、バス貸込)

宿泊地 上高地ホテル 松本市安曇さわんど温泉4171

募集数 40名 (定員になり次第、募集を締め切ります)

締切り 8月10日

主催：NPO法人 新潟水辺の会

お問合せ先 新潟水辺の会 事務局 電話 025-264-3191

E-mail ecoline@mvd.biglobe.ne.jp

第7回 信濃川大河塾

越後では湛水・洪水被害を少なくするため、水を下流にいかにか早く流す工夫の「治水」に力点が置かれていた。

一方千曲川の上流部安曇野の複合扇状地では、水不足の荒地に水を供給し、水をいかに多くの田で利用するか「利水」に力点が置かれ、勘左衛門堰、拾ヶ堰などが出来た。農業基盤が上がり、そこから道祖神文化が花開いていった。今年には拾ヶ堰開削 200 年。



梓川上流から下流新潟の「水と土」を考える旅

- ◆ **8月11日（木）講演会と対談** ○PM2:00~4:40 クロスパルにいがた4階 映像ホール
信州・安曇野川の歴史、川の利用、水の文化の生まれ方を宮下館長より講演をいただき、その後「下流新潟と上流の信州での「水」、「土」、「文化」について、宮下館長と大熊顧問の対談。
- ◆ **8月23日（火）1日目** ○AM7:00 新潟駅南口集合 7:10 出発
北陸自動車道～関越自動車道⇒北陸自動車道⇒上信越自動車道⇒中央自動車道⇒松本IC⇒158号⇒上高地ホテルで昼食⇒上高地・梓川自然体感(自由散策)⇒ホテル
- ◆ **8月24日（水）2日目**
8:30 宿を出発⇒安曇野市豊科郷土博物館見学⇒桃瀬館長と梓川サイフォン見学⇒安曇野用水堰見学⇒三川合流⇒犀川ダム群見学⇒昼食⇒途中車中より善光寺平用水説明⇒上信越自動車道～北陸自動車道⇒新潟へ
18:30新潟駅で解散

参加申込書（締切 8月10日）

フリガナ 氏名		住所	〒	
所属		電話		携帯
		E-mail		

- ※ この表を 025-264-3260 に FAX するか、問い合わせ先(アドレス)へ同内容をメールしてください。
- ※ 主催側で傷害保険をかけています
- ※ いただいた個人情報は、この行事に関わる名簿整理の他には使用いたしません